

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成30年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(2/7)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
あわじ環境未来島特区 (兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市)	4.2	4.1 進捗度 ・エネルギー(電力)自給率 106% ・二酸化炭素排出量 120% ・再生可能エネルギー創出量 102% ・竹燃料の消費量 81% ・新規就農者数 67% ・再生利用が可能な荒廃農地面積 114% 等	3.9 規制の特例等 ・太陽光発電施設の系統連系に係る迅速な手続の明文化 等 財政支援等 ・洋上風力発電の事業化可能性調査 地域独自の取組 ・住宅用太陽光発電システム設置費補助金 等	4.3	<p>・島内エネルギー自給率の高さは驚くべきこと。再生可能エネルギーの見本市の観がある。これ自体が視察等を対象とした観光資源となり得るだろう。</p> <p>・二酸化炭素排出量の削減目標についてはもう少し高い目標が設定されてよいように思う。</p> <p>・竹燃料の消費量の安定化を図るには大口需要が複数あったほうがよい。令和元年以降500tの消費を計画しているが、現在の成績では達成が難しいかもしれない。</p> <p>・移住・定住志向の強い独立就農者について、移住にあたっての多面的な支援が必要だろう。チャレンジファーム等、就農支援はよく取り組まれていると思う。新規就農者の育成・確保のためには地元開設された大学との連携をさらに深める必要があると考える。</p> <p>・入り込み客数については外国人観光客へのはたらきかけが求められるところである。</p> <p>・耕作放棄地の減少は既に目標が達成されている。目標の再設定を検討すべきである。</p> <p>・エネルギー関係の動きは順調であるが、もう1つの柱ともいえる農業に関する動きが停滞気味である。天候に左右されるなどのやむをえない面はあるが、両者の結合など、今後の新たな取り組みが期待される。</p>